

9.1 環境報告書の評価



(株)トクヤマ 執行役員 CSR推進本部長
関 道子

■ 第三者有識者のコメント

(株)トクヤマは山口大学と2004年より包括的連携協力協定を結び、様々な分野で協力していくことで地域の発展に寄与したいと進めて参りました。弊社も中期経営計画で「地球温暖化防止への貢献」を掲げ、多くの課題にチャレンジしております。カーボンニュートラルな社会の実現のハードルは高く、お互い高い目標を掲げての挑戦が続くと思っておりますが、今後とも協力し合い、活動していきたいと思っております。このような関係の中、今回の第三者有識者に選んでいただいたことで、貴学の環境への取り組みを再認識いたしました。本報告書を拝読しての意見・感想等を述べさせていただきます。

1. 目標達成状況（3章、4章、5章）

- ・各環境目標に対して、概ね順調に進んでいます。特に猛暑であったにもかかわらず、エネルギーや温室効果ガスの増加を抑制できたことは、環境対策を継続的に進めている成果が表れていると思えました。
- ・「クールビズ・ウオームビズ」の通年化、「コスト縮減実行計画」の組織的な取組強化が徹底され、省エネ対策と政府の支援により、光熱水費の負担額が、前年度比約1億円の削減となっていることには驚きました。

2. 環境貢献技術の創出（6章）

- ・「山口大学グリーン社会推進研究会」には、弊社のメンバーも参加させていただいておりますが、企業、自治体、産業支援機関、大学等からなる、法人会員16機関、個人会員236名のネットワークに広がり、地域におけるカーボンニュートラル実現への研究シーズと地域ニーズがマッチした「ご当地プロジェクト」の活動が活発に進められていることを改めて理解しました。その中のテーマがJSTの受託研究に採択される等、活動が大きくなっており、さらなる進展に期待します。
- ・中高温微生物研究センター、環境DNA研究センター等を現地視察させていただきました。中高温微生物研究センターは、異なる知識や経験を有する研究者が集まる場の提供にもなっていて、知識の融合が図られていると感じました。微生物分野の新たなフロンティアとして、成果の発信を楽しみにしたいと思います。環境DNA研究センターは、新しい生物調査技術に挑戦していて、生物多様性と関係してこれから着目される分野と感じました。今回の報告書では紹介されておりましたが、視察当日、他にも興味深い研究をいろいろお聞きし、今後の進展が楽しみです。

3. 前年度に比較して改善されている点

- ・新たにTCFD対照表を加えることで、掲載内容がグローバルで求められている内容であることを再確認できました。（10章）
- ・信頼性向上に繋げるため、各種取組（会議・部会等）の実施日や実施回数を明記されており、報告書全般の信頼性向上に繋げておられました。（報告書共通）

4. 外部からの評価

山口大学の環境意識の高まりは、表紙の環境対策スローガンの募集にも表れていて、これまでで最も多い730件の応募の中から選ばれたものでした。また喫緊の課題である気候変動に積極的に取り組まれていることは、イギリスの高等教育専門誌THE（Times Higher Education）が2024年6月12日に発表した「THE大学インパクトランキング2024」において、総合ランキングで401-600位（国内19位タイ）にランクインし、「SDGs13：気候変動」では、総合ランキングで101-200位（国内2位）という高い評価を受けられていることから伺えます。

5. 総括

山口大学「環境報告書2024」は、環境に関する基本理念と方針、環境目標を掲げ、環境最高管理責任者である谷澤学長のトップマネジメントのもと、大学の全構成員が環境マネジメント体制に従って環境配慮活動を行い、継続的に環境問題に取り組んでいることが伺える内容となっていました。また、大学本来の機能・役割である優秀な人材の輩出に加え、環境の観点における高いレベルでの研究活動は、これから訪れる環境に配慮した社会の創生に向けて、積極的に取り組もうとしている姿勢が伝わりました。本報告書で報告されている取り組み等を積極的に推進していただき、持続可能な社会づくりに貢献されますことを期待しております。



図9-1 関CSR推進本部長と環境DNA研究センター赤松教授の研究に関する意見交換の様子



環境マネジメント対策推進会議で策定された「環境目標」の実施状況を次のとおり報告します。

なお、「環境目標と行動計画」は、国連の掲げるSDGs（持続可能な開発目標）及び、政府の2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指した取り組みに賛同し、事業所全体・組織・構成員（教職員・学生等）一人ひとりが自身の課題と解決方法であることを認識して全員参加で取り組んでいます。

表4-1 環境目標と実施状況

環境目標	分類 【SDGs指標】	中期目標	2023年度 環境目標	実施状況	関連ページ
事業活動における 環境負荷の低減	温室効果ガス排出抑制 【SDG 7.9.1.1. 1.2.1.3】	2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減を目指すこととして、第4期中期計画（2022～2027年度の期間）においては2013年度比で38%削減を目指す	エネルギーの消費量を対前年度比及び5年間平均原単位変化1%以上の低減に努める 電気需要平準化評価を対前年度比及び5年間平均原単位変化1%以上の低減に努める 温室効果ガス排出量を対前年度比及び5年間平均原単位変化1%以上の低減に努める	省エネ改修、節電実行計画の推進、エネルギー使用量管理の徹底などを実施しました。 中期目標 環境目標 エネルギー消費量原単位 5年間平均で0.4%減 対前年度比0.2%増 電気需要平準化評価原単位 5年間平均で0.4%減 対前年度比増減なし 温室効果ガス排出量原単位 5年間平均で4.1%減 対前年度比1.7%増 温室効果ガス排出量2013年度比26.6%減	P8. 9
	水資源の有効活用 【SDG 6.1.2】	水使用量の削減に努める	節水の推進	節水機器更新、水量調整、使用量管理の徹底、雨水再利用、井戸水有効活用を実施しました。 使用量前年度比0.6%増	P8. 12 P13
	グリーン契約 【SDG 9.1.2】	グリーン契約の推進に努める	グリーン調達比率100% 環境配慮契約の普及	グリーン調達比率100%を達成しました。 環境配慮契約とエシカル消費を実施しました。	P11. 13 P14. 16
	森林保護 【SDG 12.1.3.1.5】	紙使用の減量化に努める	紙使用量の削減とリサイクルの推進	両面印刷やNアップ印刷、電子情報による管理、用紙封筒の再利用、PCによる電子会議・事務手続きの簡素化・電子化、古紙リサイクルの取り組みを実施しました。 紙類購入量前年度比98.7%増 印刷複合機出力紙枚数前年度比5.2%増	P8. 13 P14
	廃棄物の抑制 【SDG 3.6.1.1. 1.2.1.3.1.4.1.5】	廃棄物の減量化に努める	廃棄物の削減とリサイクルの推進	ゴミの分別収集の徹底、数量把握と減量化、食品ロス削減・フードバンク支援、実験計画見直し、化学物質使用量の削減、有機溶媒再利用、落葉等の堆肥リサイクルの取り組みを実施しました。 一般廃棄物量前年度比1.6%減 産業廃棄物量前年度比12.8%減 廃液処分量前年度比5.1%減	P6. 8 P14. 16
環境貢献技術の創出	環境に関する研究 【SDG 1～17】	地球環境にやさしい研究開発の推進	省資源・省エネルギー、地球環境保全等に繋がる研究開発の推進	地球温暖化に対する緩和策、気候変動への適応性環境保全、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用などの研究の促進を行いました。	P17～24
環境モラルの醸成	環境教育 （環境基礎・環境教育カリキュラムの充実） 【SDG 4.1.3】	学生への環境教育の徹底 職員への環境教育の徹底	実験排水の適正な処理の徹底教育・研究等による環境マインドの向上 職員への省エネ意識の啓発	環境対策に関する教育、環境保全及び安全教育、実験排水や廃液処理について、Web講習会等を活用して、教育の普及推進に取り組みました。 環境対策に関する情報の提供（ホームページ）、省エネ啓発通知（メール）、ポスター掲載、巡視などの取り組みを実施しました。	P15. 16 P25～28 P30. 32 P5. 11 P13. 27 P28
	環境美化 【SDG 6.1.2.1.3. 1.4.1.5】	環境美化運動の促進	緑化の推進及び一斉清掃の実施	キャンパスクリーン作戦（年2回）、構内除草作業・植木の剪定・芝管理・放置自転車の整理などの取り組みを実施しました。	P29. 30 P32
	地域との触れ合い 【SDG 4.1.0.1.3. 1.7】	関係者に対する環境情報の提供	各種媒体を通じた環境情報の発信	環境情報の発信、社会連携講座・公開講座やセミナーの開催、環境配慮活動の広報活動などの取り組みを実施しました。	P29～32
地域との協調・コミュニケーション	職員・学生の自主活動による社会・環境貢献 【SDG 1.3.1.4.1.5】	地域貢献活動の推進	職員・学生の自主活動による環境貢献	地域クリーン作戦（年2回）、クールチョイス、CO ₂ 削減県民運動の取り組みに参加しました。	P27. 29
法規制の遵守	化学物質の管理 水質汚濁防止 【SDG 3.6.1.2. 1.3.1.4.1.5】	グリーンケミストリーの推進	化学薬品等の使用量の削減	実験計画の検討及び見直し、化学物質使用量の削減、有機溶媒の再利用などの取り組みを実施しました。 廃液処分量前年度比5.1%減	P6. 14 P28
		化学物質の適正管理の徹底	化学物質取扱者への教育・訓練の徹底	環境保全と安全教育、廃液処理教育などの取り組みを実施しました。	P6. 14 P28
		下水排除基準、排水基準の遵守	化学物質及び排水・廃液の適正管理	実験・研究室の巡視、各種排水、廃液の適正管理の徹底をしました。	P6. 14 P16. 28
	大気汚染防止 【SDG 3.6.1.2. 1.3.1.4.1.5】	フロン漏洩防止、大気排出基準の遵守	フロン排出抑制法に関する第一種特定製品（業務用空調機器、業務用冷凍冷蔵庫等）の適正管理 自家発電装置等の大気排出基準による適正管理	フロン排出量は、適正な維持管理により、報告対象値未達となりました。 ばい塵排出量は、適正な運転及び維持管理を行い、排出基準値以下となりました。	P5
	産業廃棄物の処理 【SDG 3.6.1.1. 1.2.1.3.1.4.1.5】	産業廃棄物の適正な管理と処理	産業廃棄物の適正な管理と処理	廃棄物マニフェストの適正な管理と処理を実施しました。	P5. 14. P16
環境マネジメントシステムの整備・充実	環境配慮の取り組みのための管理体制 【SDG 1.1.1.3. 1.7】	管理体制による適正な活動	管理体制による適正な活動	環境マネジメント体制の円滑な運用及び環境目標や行動計画の履行、組織内への数値目標・実績等の周知・確認を実施しました。 環境マネジメント対策推進会議：年3回開催 環境マネジメント対策部会：年3回開催	P2～4

